



2026 年 6 月 5 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 エ ル テ ス
代表者名 代表取締役社長 菅原 貴弘
(コード番号：3967 東証グロース)
問合せ先 取締役 経営戦略本部長 伊藤 豊
(TEL. 03-6550-9280)

2026 年定時株主総会における事前質問と会場質問について

日頃より、当社にご関心をお寄せ頂き誠にありがとうございます。2026 年 5 月 28 日開催の定時株主総会について、事前質問でお受けした質問や当日頂戴した質問について開示するものです。回答内容については、時点のずれによって多少の齟齬が生じる可能性があります、直近の回答内容を最新の当社方針として回答を記載しております。

■関連資料

株主総会関連資料：<https://eltes.co.jp/ir/library/meeting>

■事前質問

Q. 女性活躍の現状と今後について教えてください。

<回答>

女性管理職の登用は、12%にとどまっており、重要な課題であると認識しております。一方で、従業員全体の女性比率は、32%となっており、適切なタレントマネジメントと女性も安心して活躍し続けられる環境の整備により、中長期の改善を目指します。なお、女性を含めた多様な人材が活躍する会社を目指す人的資本投資強化に関しても、3 カ年経営計画にも記載しております。

Q. グロース上場維持基準に満たなかった場合の対応について教えてください。

<回答>

まず、2030 年度以降の適用が予定されているグロース上場維持基準の時価総額 100 億円、この冬から適用される現行制度の 40 億円に関しても、ポートフォリオ再編の実行とデジタルセキュリティセグメントの事業をしっかりと伸ばしていくことで、収益性の高い組織に変革し、クリアしていくことが出来ると考えております。一方で、もし維持基準に満たなかった場合は、スタンダード市場への移行も含めた選択肢を今後検討していくことになる想定しておりますが、現段階で決定事項はございません。

Q. インフレ環境の中で今回のオフィス移転の合理性をどのように考えているかを教えてください。

<回答>

今回の移転で5年先までオフィス費用が固定されています。また、複数拠点にまたがっていたオフィス環境を統合し、床面積でも拡張している一方で、家賃総額は低下しております。こういった観点から、2030年の時価総額100億円超過を目指して、基盤を安定させ、収益性向上にもつながるオフィス移転になっていると考えております。

Q. カーブアウトの今後の方針について教えてください。

<回答>

まず、今年1月に旧DX推進事業のカーブアウト方針を発表し、4月末に2社の売却が完了しております。残りの2社に関しても、引き続きベストオーナーへの売却交渉を継続していくことを発表しております。その他、旧スマートシティ事業の、不動産領域についても、カーブアウトの検討を進めていくことを想定しております。

■会場質問

Q. 3ヵ年経営計画（2027年2月期～2029年2月期）で掲げている営業利益率12%以上を達成できる根拠について教えてください。

<回答>

過去にはデジタルセキュリティセグメントの市場が小さい可能性を懸念し、多角化していく意思決定をしてまいりましたが、現在の粗利率・営業利益率の低さや全社費用の増大している背景には、ポートフォリオを拡大したことが大きいと考えております。全社費用が膨らんでいることに関しては、副社長が推進するカーブアウトおよびデジタルセキュリティセグメントに集中することで管理費用が削減していくと考えております。また、エルテスとして独自性・競合優位性があり、堅調に成長し営業利益率が高いデジタルセキュリティセグメントに集中していくことが営業利益率12%以上の達成に繋がると考えております。

Q. 全社費用をどの程度削減できると見込んでいるか教えてください。

<回答>

まず、全社費用の多くはエルテスが有する管理部門の費用になっております。前期実績で、デジタルセキュリティセグメントの売上高2,744百万円に対して、全社費用637百万円となっており、デジタルセキュリティセグメントの売上高対比で全社費用は、23%です。今後、デジタルセキュリティセグメントでの売上高拡大と、カーブアウトによるエルテス管理部門業務の圧縮で、デジタルセキュリティセグメントの売上高に対して、全社費用の比率を15%程度まで削減を目指します。

Q. 内部脅威検知サービスのニーズの高まりを感じているが、実際に問い合わせ等は増えているか、教えてください。

<回答>

テレビ東京のワールドビジネスサテライト等で取り上げていただきましたが、保険会社を含めて様々なエンタープライズ企業からの問い合わせが来ております。内部脅威検知サービスのニーズの高まりを会社としても実感しており、2026年3月～5月の第1四半期は前年同期比と比較して、約20%案件数が増加しております。

Q. 上場維持基準が未達の場合、スタンダード市場の移行等をいつ頃判断するか、教えてください。

<回答>

2029年には時価総額100億円に達するかどうか見込みが見えてくると踏んでおり、そこも見据えて2027年2月期から2029年2月期までの3ヵ年経営計画を出しております。また、スタンダード市場への移行は、時価総額100億円を目指さない意思表示に繋がる恐れを懸念しております。経営陣としては、エルテスが時価総額100億円、200億円のポテンシャルがあると信じており、グロース市場に残ることが目的ではないものの、この上場維持基準をクリアすることを第一目標として見据えております。